

災害看護

効果的な防災訓練を実施するために

前回の災害看護 PART4では災害医療の7つのポイント「CSCATTT」について紹介しました。今回は実際に「CSCATTT」を活用する機会となる防災訓練について考えてみましょう。

医療施設には消防法に基づいて年2回以上の防災訓練が義務付けられていますが、みなさんの施設ではどのような防災訓練が行われていますか？突然の災害に備え、効果的な防災訓練を行うためには、日頃から定期的に訓練を行い、防災活動に必要な行動や知識を、スタッフ全員で共通認識することが重要です。そこで、防災訓練を企画・運営する際のポイントについて紹介します。

防災訓練の企画・運営ポイント

訓練の流れ	具体策		ポイント
目的・目標	各部署の特徴を分析		患者の特徴、各勤務帯での職員の人数、配置など
	災害を想定		災害の種類・被害規模・発生時間・勤務体制など
	防災活動に必要な行動・知識（どの部分の訓練が必要か検討）		想定外に備えることができるシナリオの準備
	全スタッフに訓練を周知徹底参加を促す		アクションカードの活用（詳しくは、本誌141号P10「災害看護 PART3」参照）
実 施 小さな集団から大きな集団へ段階を踏む EX) 部 署 ↓ フロアー間や関連部署と合同 ↓ 全部署	CSCATTT 関連訓練	一元的指揮命令訓練	非常事態宣言、時系列での情報収集、情報伝達など
		防護訓練	自身の安全確保、危険区域の確認など
		初期消火訓練	消火設備の種類と設置場所・取り扱い方・消火の限界など
		避難誘導訓練	避難経路の決定・経路の伝達・想定外の障害物の危険予知など、見取り図の活用
		救護訓練	救護者の優先順位判断、待機中の観察、搬送に必要な用具の選択と準備、具体的な搬送方法
	その他	物資・物品搬送訓練	持ち出し物品の管理、保管場所・物資搬送経路など
		机上訓練	各部署の見取り図を作成し、避難経路や人・物の動きをシミュレーション
		職員参集や情報伝達訓練	院内緊急連絡網訓練、関連診療科の緊急召集訓練など
★ 評価	「災害看護 PART6」へ		

★防災訓練では、**評価**も大変重要です。「災害看護 PART6」（本誌150号掲載予定）では、この**評価**について詳しくお知らせします。

東日本大震災においても、「日頃の防災訓練が大きく役立った」、「防災訓練のおかげで被害が拡大しなかった」などの減災体験が聞かれます。“訓練のための訓練”にならないよう、自施設の特徴を踏まえた効果的な訓練の企画・運営に活用してください。